

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-3	中学校	国語科	国語	1学年
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	国語 731	国語 1		

I. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨

「言葉」と向き合い、新しい時代を生き抜く「国語の力」をはぐくむ

- ・ **確かな学びを**——国語の学習のしかたがわかり、主体的に取り組めるように。
- ・ **言葉との出会いを**——たくさんの言葉と出会い、豊かな心、考える力を培えるように。
- ・ **未来をひらく力を**——多様な作品を通して、人間、社会、世界へ思いを巡らせるように。

編修の留意点

1 言語に対する関心を高め、生きてはたらく国語の力を育成する。

- ・ 言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心や理解を深めるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を言語活動を通して育成することを目指しました。

2 伝統的な言語文化に触れて豊かな感性を育成する。

- ・ 我が国の言語文化に触れ、それらを享受・継承し、新たな創造へとつないでいくために、生涯にわたって古典に親しむ態度の育成を目指しました。

3 コミュニケーション能力を育成する。

- ・ 相手や目的、意図、場面に応じ、互いの立場や考えを尊重し、課題の解決に向けて協力し合ったり助言し合ったりする活動を通じて、コミュニケーション能力を育成することを目指しました。

4 豊かな心を育成する。

- ・ 読書に親しみ、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりする態度や、自分の読書生活を振り返り、日常的な読書をより豊かなものにしようとする態度を育成することを目指しました。

5 情報社会を生き抜く能力を育成する。

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習活動において、課題解決を行う過程で、情報活用能力を育成することを目指しました。
- ・ 図書・資料の検索に図書館や情報機器を効果的に活用する方法などを学び、読書生活を充実させようとする態度と情報活用能力を育成することを目指しました。

6 社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。

- ・ さまざまな読み物や学習活動を通じて、人と社会の多様性を認め、それを尊重する態度と、社会の変容に対応できる力を育成することを目指しました。

II. 編修の基本方針

編修の趣旨及び留意点で挙げた各項目を実現するために、以下の方針に基づいて教科書を作成しました。

■ 学習で身につける力を明確に示した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」教材の冒頭には、「目標」を明示し、その学習でどんな力をつけるのかを、生徒に向けてはっきりと示しました。教材内に位置付けた「学習の窓」(p.48など)では、その学習を通して身につける力や文章の内容を理解するためのポイントを簡潔にまとめ、これを示しました。

■ 学習過程を提示し、主体的に学習に取り組むことができる教科書

- 生徒が、主体的に学習に取り組み、自ら課題を発見し、考え、解決できるように、冒頭に「学習の見通しをもとう」(p.8~12)を設けました。年間を通してどんな力を身につけていくのかを見通し、それぞれの教材の学習のポイントを一覧にまとめてわかりやすく示しました。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の冒頭にも、「学習の見通しをもとう」(p.36など)のコーナーを置き、図式化して学習の流れを理解しやすくしています。

■ 言語活動を通し、言葉の力を日常生活や社会生活に生かせる教科書

- 学習したことを広く日常生活や社会生活に生かしていけるよう、各教材には、学習のねらいに即した必然性のある言語活動を設定しています。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「文法」「言葉」には、「生活に生かす」「他教科に生かす」(p.132など)を位置付け、その学習で身につけた言葉の力を生かすことのできる「実の場」を具体的に例示しました。

■ 「習得」から「活用」を重視した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「練習」教材(p.40など)を随所に設け、身につけたい力をコンパクトに習得し、その後の教材の学習に有機的に活用できるように位置付けました。

■ 伝統的な言語文化を尊重し、国語と郷土を愛する心を育成する教科書

- 古い時代から現代まで受け継がれてきた、さまざまな古典作品を掲載しました。「季節のしおり」(p.35など)では、四季にちなんだ言葉や作品の一節を紹介することで、豊かな感受性とともにくまれた日本の伝統的な言葉に触れる機会をもち、日本語そのものに興味をもつことを目指しています。

■ 読書の価値を実感できる教科書

- 教材ごとに、同一の作者、テーマなど、教科書での学習と関連させる「広がる読書」(p.47など)を示し、充実した読書生活を送るための場を設けました。「読書コラム」(p.93)では、映画監督や翻訳者、作家など多様な筆者による、読書への興味付けのメッセージを掲載しています。

■ 情報化時代を生き抜く力を身につける教科書

- 情報社会に的確に参画できる情報活用力を培うため、さまざまな情報の集め方(p.60)や、メディアリテラシー、情報発信などについて考えを深める教材を系統立てて取り入れました。著作権や情報モラルなどについても意識を高める工夫をしています。

■ 小・中9年間の系統性を重視し、生徒の発達段階に応じて、個性を引き出す教科書

- 学年のキーワードとして1年「確かさ」、2年「豊かさ」、3年「深さ」を設定しました。1年では小学校で身につけた力をより確かなものにし、2年でそれをより高め、3年では充実感として深めていけるよう、教材構成を工夫しました。
- 学習活動には、生徒の具体的な発言を取り入れて考え方のヒントを示したり、「交流」の場を多く設けたりしています。生徒一人一人が個性を生かして学習に臨み、互いに助言し合ったり、認め合ったりしていく中で、心の豊かさや言葉の豊かさについて考え、気づき、学習することの喜びや達成感を得られるようにしました。

Ⅲ. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
表見返し・口絵・目次・中扉	○自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、表見返しと中扉では、四季折々の植物の写真を取り上げた。 ——【第四号】	・表見返し ・中扉 (p.25など)
	○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、口絵では、生徒の学習への興味・関心を引く視覚的な資料を多数掲げ、目次等で示す単元名では、「学びをひらく」「新しい視点で」など、追究すべきねらいを明確に示した。 ——【第一号】	・口絵・目次
言葉に出会うために	○豊かな情操と道徳心と創造性を培うために、詩教材「野原はうたう」を題材にして、中学校の学習への導入期を設定した。 ——【第一号】	・p.14～24
1 学びをひらく 「花曇りの向こう」 「季節のしおり」	○個人の価値を尊重し、その能力を伸ばすために、生徒と等身大の人物が登場する物語教材「花曇りの向こう」を位置付け、一人一人の考えや感じ方の違いを知る機会とした。 ——【第二号】	・p.26～34
	○伝統や文化を尊重することを通じて豊かな情操を培うため、年間4箇所に位置付けた「季節のしおり」に、四季に応じた詩歌や二十四節気の言葉を配した。 ——【第一号】【第五号】	・p.35
2 新しい視点へ 「ダイコンは大きな根?」 「ちよと立ち止まって」 「『好きなもの』を紹介しよう」 「情報の集め方を知ろう」	○幅広い知識と教養を身に付け、新たな探究心を培うことを意図して、生徒の知的好奇心を揺さぶる説明文教材「ダイコンは大きな根?」、「ちよと立ち止まって」を位置付けた。 ——【第一号】	・p.44～54
	○自他の敬愛と協力を重んずるきっかけとなるよう、「『好きなもの』を紹介しよう」を位置付け、スピーチを通して、生徒一人一人の考えや感じ方の違いを理解できるようにした。 ——【第三号】	・p.56～59
	○公共の精神に基づいて幅広い知識と教養を獲得することを目指す教材「情報の集め方を知ろう」を位置付けた。 ——【第一号】【第三号】	・p.60～64
3 言葉をつなぐ 「詩の世界」 「空を見上げて」	○豊かな情操と創造性を培うことを目的に、情景豊かな詩を読み味わう「詩の世界」を位置付けた。 ——【第一号】【第二号】	・p.68～71
	○自他の敬愛と協力を重んずることを、東日本大震災を巡る中学生と世界の人々との心の通い合いを描いた随筆「空を見上げて」を通して感じ取らせるようにした。 ——【第三号】	・p.73～77
読書生活を豊かに —想像を広げる 「光る地平線」 「本の世界を広げよう」	○自他の敬愛と協力を重んずること、並びに生命を尊ぶ態度を、登場人物の生きる姿を通して読み取る物語教材「光る地平線」を位置付けた。 ——【第三号】【第四号】	・p.80～87
	○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うために、「友達」「いのち」「情報」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。 ——【第一号】	・p.90～92
4 つながりの中で 「星の花が降るころに」 「大人になれなかった弟たちに……」 「シカの『落穂拾い』」 ——フィールドノートの記録から	○個人の価値を尊重して、自主及び自律の精神を養うため、また男女の平等にも思いを巡らせるために、友人間の心の機微を描いた物語教材「星の花が降るころに」を位置付けた。 ——【第二号】【第三号】	・p.96～105
	○生命を尊ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、戦時下の親子の状況を描いた物語教材「大人になれなかった弟たちに……」を位置付けた。 ——【第四号】【第五号】	・p.106～116
	○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、説明文教材「シカの『落穂拾い』——フィールドノートの記録から」を位置付け、客観的な観察とそれに基づく仮説、検証の過程を示した。 ——【第一号】	・p.118～127

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
5 いにしへの心に触れる 「月に思う」 「蓬萊の玉の枝—— 『竹取物語』から」 「今に生きる言葉」	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を涵養するため、古典に表れた心情を解説する文章「月に思う」をはじめ、古典作品「蓬萊の玉の枝——『竹取物語』から」、故事成語の解説「今に生きる言葉」を位置付けた。——【第五号】	・p.140～162
6 論点を捉えて 「幻の魚は生きていた」 「話題や方向を捉えて話し合おう」 「根拠を明確にして魅力を伝えよう」 「竹」	○ 生命を尊重し、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うため、生態系に対する人間の関わりについて論じた説明文教材「幻の魚は生きていた」を位置付け、環境に対する考えをもたせるようにした。——【第四号】	・p.164～172
	○ 個人の価値を尊重する活動を基本に据え、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する話題を取り上げた教材「話題や方向を捉えて話し合おう」を位置付け、討論の中で多様な考えに触れて、自分の考えを広げ深めるようにした。——【第二号】【第三号】	・p.174～178
	○ 幅広い知識と教養と豊かな情操を、「根拠を明確にして魅力を伝えよう」で絵画についての鑑賞文を書かせることによって深めていくことを目指した。——【第一号】	・p.180～185
	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することを、近代詩「竹」を声に出して読み味わうことで培うようにした。——【第五号】	・p.186～187
読書に親しむ — 伝統を生きる 「桜守三代」 「本の世界を広げよう」	○ 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度に気づき、伝統と文化を尊重する態度を、伝記教材「桜守三代」の登場人物の姿を通じて気づかせるようにした。——【第二号】【第五号】	・p.190～196
	○ 健やかな身体を養い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を培うために、「部活・スポーツ」「国際社会に生きる人々の姿」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。——【第一号】【第五号】	・p.197～199
7 自分を見つめて 「少年の日の思い出」 「印象深く思いを伝えよう」 「一年間の学びを振り返ろう」 「ほくが ここに」	○ 正義と責任について思いをいたすために、登場人物の心の葛藤を描いた小説「少年の日の思い出」を位置付けた。——【第三号】	・p.202～218
	○ 自他の敬愛と協力を重んずることを、学校生活の良さを新入生に伝えるメッセージを書かせる教材「印象深く思いを伝えよう」で意識付けるようにした。——【第三号】	・p.224～228
	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を、一年間の国語学習を総括する教材「一年間の学びを振り返ろう」で総合的に意識化させるようにした。——【第一号】	・p.230～235
	○ 真理を求める態度と個人の価値を尊重することについて、詩教材「ほくが ここに」を読み深めながら涵養できるようにした。——【第一号】【第二号】	・p.236～237
学習を広げる（資料） 「坊っちゃん」 「言葉としぐさの伝統芸能」 「流水と私たちの暮らし」 「いろいろな通信文」 「敬語を使う」	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を近代文学「坊っちゃん」、古典落語の紹介「言葉としぐさの伝統芸能」でさらに深めるようにした。——【第五号】	・p.264～273 ・p.282～283
	○ 自然を大切に、環境の保全に寄与する態度について、「流水と私たちの暮らし」の事例を通して理解を深めるようにした。——【第四号】	・p.274～279
	○ 豊かな情操と道徳心、自他の敬愛と協力について、「いろいろな通信文」「敬語を使う」で意識化させるようにした。——【第一号】【第三号】	・p.290～291 ・p.293
後見返し 色いろの言葉	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を、日本の伝統色の名称を集めた「色いろの言葉」によって興味を引きながら育むようにした。——【第五号】	・後見返し

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

■ 特別支援教育・色覚特性への配慮

学習上の支援が必要な生徒のために、また、教科書のユニバーサルデザインという観点から専門家による校閲を行い、特に以下の点に配慮しました。

[学習の流れを把握しやすいように]

- 学習の流れを把握し、見通しをもてることが理解を助けるとの観点から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」活動の冒頭に活動の流れを図示した「学習の見通しをもとう」を位置付けました。また、「読むこと」教材内の「学習」においても設問に番号を振り、見出しを立てて、学習のステップをわかりやすく示しました。

[色覚特性への配慮]

- 色覚特性に配慮し、色による識別に頼ることなく、形（実線と破線による区別など）や濃淡で識別できること、判別しにくい色の組み合わせは行わないことなどを基本に図表を作成しました。また、色を問うような学習活動は設定しないようにしました。

■ 小学校から中学校への円滑な連携を図るための配慮

小学校で学習する6年間と中学校で学習する3年間を一つのまとまりとして捉え、小学校6年生と中学校1年生の間の学習段階の差が極端につくことがないように配慮しました。

[1年冒頭「言葉に出会うために」の設定]

- 生徒が新たに中学校の国語学習を始めるにあたって準備を整える（レディネス）ための場として、プレ単元という位置付けで「言葉に出会うために」（p.14～24）を設定しました。小学校における基本的な学習事項を確認したうえで、中学校での国語学習において、いつでも基礎・基本（声を届ける・書き留める・調べる）を確認できる場としました。

[新しい仲間との交流の重視]

- 中学校の国語学習が、新しい学級の仲間と音読を通して楽しくスタートできるように、親しみやすい詩「野原はうたう」（p.14～17）を位置付けました。この教材は、生徒がこれまで慣れ親しんできた教科書体を用いており、学習の円滑な移行が図れるようにも配慮しています。

■ 道徳教育との連携・人権教育への配慮

道徳教育・人権教育の観点からアプローチできるように配慮しました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 「時と場合に応じた適切な言動」「相手の人格を尊重する」「それぞれの個性や立場を尊重する」など、題材や活動の選定に配慮しました。

「読むこと」

- 「自己を見つめる」「友情の尊さ」「異性への理解」「生命の尊さ」「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心」「人間の強さや気高さ」「優れた伝統の継承と新しい文化の創造」など、題材の選定に配慮しました。

■ 未来に向かって力強く生きようとする力を育成する配慮

- 東日本大震災という未曾有の事態を経て、社会情勢や価値観が変容する中、生徒が未来に向かって力強く生きていくことに資する教材を「国語」の観点から選びました。生徒が自分の生き方を見つめ、「言葉の力」によって未来を切り開くことができるような教材を数多く取り上げています。

編修趣意書

学習指導要領との対照表，配当授業時数表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-3	中学校	国語科	国語	1学年
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	国語 731	国語1		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

構造上の特徴

1 「言葉」との出会いを大切にします。

- 3年間を通じて、言葉そのものを深く見つけ、言葉のもつ力を考える教材を多数位置付けました。
- 1年冒頭の「言葉に出会うために」(p.13)では、言葉に出会う喜びと意義について触れました。「続けてみよう」(p.24)の「言葉の手帳」では、心に残った言葉を常に書き留め、言葉に対する感覚を磨くことを習慣化するようにしました。
- 各学年の第3系列は、1年「言葉をつなぐ」、2年「言葉と向き合う」、3年「言葉を見つめる」とし、言葉をテーマにした教材を位置付けました。さまざまな角度から言葉についてじっくり考えられる場としています。

2 思考のプロセスが身につくように。

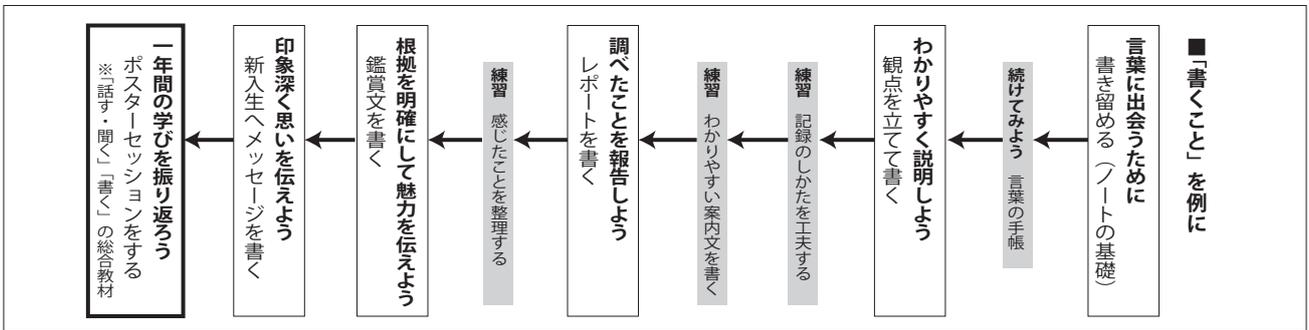
- 領域ごとに、学びの手順を統一し、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」「次へつなげよう」などの柱を立て、それぞれの具体的な手立てを示しました。生徒が、自分の言葉で感じ、考え、表現するプロセスを身に付けることができます。

読むこと	学習の見通しをもつ	話すこと・聞くこと／書くこと																								
<p>「目標」</p> <p>教材冒頭に置き、何に注目して読んでいくかを見通せるようにしました。</p>	<p>学習の 見通しをもつ</p> <p>学習・活動に 取り組む</p>	<p>「目標」</p> <p>学習の焦点化を図りました。</p>																								
<p>「学習」</p> <p>手引きを3つのステップに構造化しました。</p> <table border="1"> <tr> <td>1 確認しよう</td> </tr> <tr> <td>2 読みを深めよう</td> </tr> <tr> <td>3 自分の考えをもとう</td> </tr> </table>		1 確認しよう	2 読みを深めよう	3 自分の考えをもとう	<p>「これまでの学習を生かそう」</p> <p>既習事項を確認できる場を設けました。</p>																					
1 確認しよう																										
2 読みを深めよう																										
3 自分の考えをもとう																										
<p>「学習の窓」</p> <p>身につける力のポイントを示し、基礎・基本を確認できるようにしました。(全領域共通)</p> <table border="1"> <tr> <td>の</td> <td>学</td> </tr> <tr> <td>窓</td> <td>習</td> </tr> </table>	の	学	窓	習	<p>「学習の見通しをもとう」</p> <p>学習の流れを4つのステップに沿って示しました。</p> <table border="1"> <tr> <td>見つける・集める</td> <td>① 伝える・つなげる</td> <td>⑤ 振り返る</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>② まとめる</td> <td>⑥ これまでの学習を生かそう</td> </tr> <tr> <td>深める・整理する</td> <td>③ 深める・整理する</td> <td>⑦ 振り返る</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>④ レポートの構成を確認する</td> <td>⑧ 振り返る</td> </tr> <tr> <td>まとめる・表現する</td> <td>⑨ レポートの構成に沿って文章にまとめる</td> <td>⑨ 振り返る</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>⑩ レポートを読み合って、話し合う</td> <td>⑩ 振り返る</td> </tr> <tr> <td>伝え合う・つなげる</td> <td>⑪ 集めた材料を整理する</td> <td>⑪ 振り返る</td> </tr> </table>	見つける・集める	① 伝える・つなげる	⑤ 振り返る	↓	② まとめる	⑥ これまでの学習を生かそう	深める・整理する	③ 深める・整理する	⑦ 振り返る	↓	④ レポートの構成を確認する	⑧ 振り返る	まとめる・表現する	⑨ レポートの構成に沿って文章にまとめる	⑨ 振り返る	↓	⑩ レポートを読み合って、話し合う	⑩ 振り返る	伝え合う・つなげる	⑪ 集めた材料を整理する	⑪ 振り返る
の	学																									
窓	習																									
見つける・集める	① 伝える・つなげる	⑤ 振り返る																								
↓	② まとめる	⑥ これまでの学習を生かそう																								
深める・整理する	③ 深める・整理する	⑦ 振り返る																								
↓	④ レポートの構成を確認する	⑧ 振り返る																								
まとめる・表現する	⑨ レポートの構成に沿って文章にまとめる	⑨ 振り返る																								
↓	⑩ レポートを読み合って、話し合う	⑩ 振り返る																								
伝え合う・つなげる	⑪ 集めた材料を整理する	⑪ 振り返る																								
<p>「学習を振り返る」</p> <p>「目標」に対する振り返りを、単に「できた・できなかった」ではなく、生徒が自分の言葉で学習をまとめられる場を設けました。</p>	<p>次の学習に 生かす</p>	<p>「次へつなげよう」</p> <p>学習を振り返るだけでなく、学んだことを他教科や日常に生かせるよう、具体的な活用の場面まで示しました。</p>																								

3 見通しをもって主体的に学べるように。

- 教科書冒頭に位置付けた「学習の見通しをもとう」(p.8~12)では、1年間でつける力を見通し、どんな力をどの教材で焦点化して学ぶかを視覚的にわかるように一覧表で表しました。今、学んでいることが前後の教材とどのように関わっているのかがひと目で理解でき、生徒が主体的に学習計画を立てたり、振り返りに使ったりすることができます。

報告	討論	話し合い	話す・紹介	聞く	発表・基本	話すこと・聞くこと	どんな学習をするのか見通してみよう
一年間の学びを振り返ろう ポスターセッションをする	グループ・ディスカッションをする	練習 流れを踏まえて話し合う	「好きなもの」を紹介しよう スピーチをする	練習 情報を的確に聞き取る	言葉に出会うために 声を届ける	教材	
230	174	173	56	40	18		
						話題の設定・取材 日常生活から話題を決める	何度も繰り返して積み
						人との交流を通して 材料を集め、整理する	
						話す 構成を考えて話す (全体と部分、事実と意見)	
						相手の反応を踏まえて話す	
						わかりやすく話す(話す速さや音量、語句、言葉遣い)	



領域ごとの特色

■「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 学ぶ必然性が感じられる活動や題材を設定し、学んだことが日常生活で生きるようにしました。
- 学習を振り返り、次へつなげていく場面では、必ず「他教科に生かす」「生活に生かす」の項目を立て、身に付けた力が「実の場」で応用できるようなヒントを示しています。

■「読むこと」

- 文学的な文章では、生徒と等身大の人物が登場する作品をはじめ、近代文学・随筆・詩歌など多様な作品世界をバランスよく位置付け、豊かな心をはぐくむことができました。
- 説明的な文章では、自然科学・社会科学・人文科学の幅広い分野から、生徒の興味を引くテーマを選び、主体的に読み進めながら文章構成や論理展開を学び、ものの見方や考え方を深めることができました。

■「古典」

- 生徒が興味をもって主体的に享受できるように、導入は「いろは歌」(p.140)を設定し、音読を楽しみながら古文の響きやリズムに親しめるようにしました。
- 図版 (p.145・146) やコラム (p.155) など、生徒の興味を引くものも交えながら構成し、「故事成語を使って体験文を書こう」(p.161)などの言語活動を通して、古典をより身近なものとして捉えさせる工夫をしました。

■「読書」

- 多様な作品に出会い、読書の楽しさを感じられるように、夏休み前と冬休み前に「読むこと」教材にはないジャンルの作品を位置付けました。冬休み前の系列は、人の生き方に焦点を当てたノンフィクションを置き、伝統の中

で、災害の中で、戦争の中で、前向きに生きる人々の姿を通して、生徒が自分自身を深く見つめることができるようにしました。

- 「読むこと」教材の後には、作者やテーマと関連する本を紹介する「広がる読書」を設け、読書教材の「読書案内」と合わせて3年間で243冊の本を紹介しています。

	文学的文章（夏休み前）	説明的文章（冬休み前）
1年	光る地平線〈ファンタジー〉	桜守三代〈ノンフィクション・伝記〉
2年	世界で一番の贈り物〈外国作品〉	小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」〈ノンフィクション〉
3年	高瀬舟〈近代文学〉	エルサルバドルの少女 ヘスース〈ノンフィクション〉

■「情報」

- 課題解決を行う過程で、多様な方法で情報収集をし、それを活用できる力を育成するために、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域で活動を取り入れました。
- 情報社会に的確に参画できる力を培うため、1年から3年まで情報に関する教材を特設するとともに、著作権や情報モラルなどについても意識を高められるよう、教材化を図りました。

	情報教材	情報コラム
1年	情報の集め方を知ろう〈情報収集〉	・本から情報を集める ・インターネットを利用する ・新聞の紙面構成の特徴を知る
2年	メディアと上手に付き合うために〈メディアリテラシー〉	・著作権について知る
3年	「想いのリレー」に加わろう〈情報発信〉	・情報モラル（話し合い活動と絡めて）

学習効果を高めるための工夫

■ 読みの基本を確認する（巻末折込）

作品や文章をより深く読み取るための観点として、「登場人物の心情」「要約と要旨」など基本的な学習用語を整理し、解説を加えたページを設けています。折込形式なので、いつでも参照しながら読みの基本を確認することができます。

■ 継続することで力を定着させる

印象に残った言葉や本の内容を書き留める「続けてみよう」（p.24ページ）を冒頭に置きました。1年間継続して何かに取り組むことで達成感を味わい、自ら学びを深め、定着させていくように工夫しています。

■ 活動や着眼点を明示

- 交流の場を明確に示す



交流

マークを付し、課題について確認し合ったり、感想を述べ合ったりする場を明確に示しました。

- 表現の幅を広げる



マークを付し、言語活動の種別に適した言い回しや語彙を集めています。（「質問するときによく使う表現」など）話すとき・書くときの表現の幅が広がるように工夫しました。

- 関連する他教材へのリンク



000
ページ

前に学習したことを振り返ったり、関連して学習したりすると効果的なページを示し、1年間における学習の積み重ねが容易に意識できるように工夫しました。

Ⅱ. 対照表

図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容				時数
		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項	
言葉に出会うために						
野原はうたう	14～17			(1)ア(2)ア	(1)イ(ア)	1
声を届ける／書き留める／調べる／続けてみよう	18～24	(1)ウ	(1)ア,ウ (2)イ		(1)イ(ア)	} 4
1 学びをひらく						
花曇りの向こう	26～34			(1)ア,ウ,エ(2)ア	(1)ウ(ア) (イ)	4
季節のしおり 春	35				(1)イ(ウ)	—
わかりやすく説明しよう	36～39		(1)ア,イ			5
練習 情報を正確に聞き取る	40	(1)エ				1
漢字1 漢字の組み立てと部首	41～42				(1)ウ(ア) (イ)	2
2 新しい視点へ						
ダイコンは大きな根?	44～48			(1)ア,イ(2)ア		3
ちょっと立ち止まって	49～54			(1)ア,イ,エ,オ	(1)ウ(ア) (イ)	4
練習 記録のしかたを工夫する	55		(1)イ(2)イ			1
「好きなもの」を紹介しよう	56～59	(1)ア,イ,ウ(2)ア				4
情報の集め方を知ろう／情報コラム	60～64			(1)カ		2
言葉1 話し言葉と書き言葉	65～66				2年(1)イ(ア)	2
3 言葉をつなぐ						
詩の世界	68～71			(1)ア,エ(2)ア	(1)イ(オ)	2
言葉を集めよう	72		(1)ア	(1)オ	(1)イ(イ) (ウ)	1
空を見上げて	73～77			(1)ア,エ,オ		2
文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	78				2年(1)イ(ウ)	2
読書生活を豊かに						
光る地平線	80～87			(1)ウ,オ		} 3
私が選んだこの一冊	88～89			(1)オ,カ(2)ウ		
読書案内 本の世界を広げよう	90～92			(1)オ,カ(2)ウ		
読書コラム 本との出会い	93			(1)オ		
季節のしおり 夏					(1)イ(ウ)	—
4 つながりの中で						
星の花が降るころに	96～105			(1)ア,ウ,エ		5
大人になれなかった弟たちに……	106～116			(1)ウ,オ(2)ア	(1)ウ(ア) (イ)	4
練習 わかりやすい案内文を書く	117		(1)イ,エ(2)ウ			1
シカの「落ち穂拾い」	118～127			(1)イ,エ(2)イ	(1)ウ(ア) (イ)	5
調べたことを報告しよう	128～132		(1)ア,イ,エ(2)ウ			4
漢字2 漢字の音訓	133～134				(1)ウ(ア) (イ)	1
言葉2 指示する語句と接続する語句	135～137				(1)イ(エ)	2
季節のしおり 秋	138				(1)イ(ウ)	—

図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容				時数
		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項	
5 いにしへの心に触れる						
音読を楽しもう いろは歌	140~141				(1)ア(ア)	1
月に思う	142~144			(1)オ	(1)ア(ア)(イ)	1
蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から	147~157			(1)ア,エ	(1)ア(ア)(イ)	4
今に生きる言葉	158~162		(1)ウ	(1)ア,エ	(1)ア(ア)(イ)	2
6 論点を捉えて						
幻の魚は生きていた	164~172			(1)イ,オ	(1)ウ(ア)(イ)	5
練習 流れを踏まえて話し合う	173	(1)オ(2)イ				1
話題や方向を捉えて話し合おう	174~178	(1)ア,イ,オ(2)イ				5
練習 感じたことを整理する	179		(1)イ,ウ(2)ア			1
根拠を明確にして魅力を伝えよう	180~185		(1)ウ,オ(2)ア			4
竹	186~187			(1)ア,エ(2)ア		1
文法への扉2 言葉の関係を考えよう	188				2年(1)イ(ウ)	2
読書に親しむ						
桜守三代	190~196			(1)オ		} 1 -
読書案内 本の世界を広げよう	197~199			(1)オ,カ(2)ウ		
季節のしおり 冬	200				(1)イ(ウ)	
7 自分を見つめて						
少年の日の思い出	202~218		(1)ウ,オ	(1)ウ,エ	(1)ウ(ア)(イ)	7
言葉3 さまざまな表現技法	219~221				(1)イ(オ)	2
漢字3 漢字の成り立ち	222~233				(1)ウ(ア)(イ)	2
印象深く思いを伝えよう	224~228		(1)ア,ウ,エ			5
文法への扉3 単語の性質を見つけよう	229				(1)イ(エ)	3
一年間の学びを振り返ろう	230~235	(1)ア,イ,エ	(1)ア,イ,ウ,オ			6
ぼくが ここに	236~238			(1)ア,エ(2)ア		2
文法						
1 言葉の単位 2 文の組み立て 3 単語の分類	240~256				2年(1)イ(ウ) 2年(1)イ(ウ) (1)イ(エ)	
漢字に親しもう						
漢字の練習 小学校六年生で学習した漢字	257~260				(1)ウ(イ)	
小学校六年生で学習した漢字一覧	261~262				(1)ウ(イ)	

合計時数 120